

ーはじめにー

このマレーシア研修のプログラムは、平日はマラヤ大学付属の語学教育センターでの勉強、週末は現地のマラヤ大学の学生(AAJ)との交流会・ホームステイ・マラッカトリップなどのアクティビティで構成されています。学校は基本にお昼の 3 時過ぎには終わるため、放課後にガイドブック片手にクアラルンプールの街を観光する時間も十分にあり、勉強だけでなく文化体験や余暇の時間も充実しており、とてもバランスのとれたプログラムだと感じました。慣れない異国での生活で、時にはハプニングもありましたが、振り返ると 1 か月間はとても充実しており、マレーシアでの生活を思い出すとんだか涙が出てきそうです。今回は、そのなかでも特に印象に残ったことについて報告します。

<学校での授業について> リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキル別授業とともに、2 回のプレゼンテーションの機会がありました。授業には、中東・中国・韓国・タイなど、世界の様々な国から集まった人が受講していました。文法の授業では、日本人が一番正確に答えることができていた印象でしたが、やはり私を含め日本人はスピーキングが苦手で、プログラムが始まって間もない頃はあまり発言することができず、クラスの中で一番人数が多い日本人、でも一番目立たない日本人という状況でした。反対に、日本人以外のクラスメイトたちは、文法の正誤など気にせずに、すごい勢いでしゃべったりするので、私は圧倒されて疲れてしまい、最初の数日間は、こんな状況が 1 か月も続くのかと考えると少し憂鬱な気分になったものです。しかし、グループ活動などで、クラスメイトと一緒に活動する中で、拙い英語ではありますが、なんとか英語で意思疎通できた時の小さな成功体験の積み重ねがちょっとした自信になり、相手が真剣に耳を傾けてくれることの安心感も生まれ、少しずつではありますが、英語で話すことに抵抗感がなくなりました。また、異国のクラスメイトを前にしてするプレゼンテーションはとても緊張しましたが、とても度胸がつきます。私は日本の食文化について紹介したのですが、自然の恵みに感謝する、日本の「いただきます」は、“Beautiful culture”だね！と先生が言ってくださり、クラスメイトがその場で手を合わせて、「いただきます」をまねしてくれたのは嬉しかったです。まさに文化交流です。また、先生もとても愉快でエネルギッシュな人で、いつも生徒たちに “Are you happy?”と聞いていました。この言葉、日本に帰ってからたまによみがえります。日々の何気ない生活が幸せですね。クラスメイトと一緒に英語の歌を歌う授業や、週末には、先生を含めクラス全員でダークケイブという洞窟へ行くなど課外活動もあり、楽しみながら学習できました。英語を話すことへの抵抗感が少なくなったことが大きな収穫でした。



#### ＜マラヤ大学で日本語を専攻する現地学生(AAJ)との交流＞

お互いの国の文化を紹介し合い、現地の遊びを一緒にやったり、マレーシアの伝統衣装を着せてもらいファッションショーをしたりと、とても楽しかったです。そんな中でも、私が一番印象に残っているのが、彼らの勉強に対する姿勢です。マレーシアの学生はとても勉強熱心。彼らは、日本語を学び始めてまだ1年と日が浅いのにも拘わらず、とても流暢に日本語を話します。彼らは、日本人と交流できるこの機会を逃すまいと、いろんなことを日本語で質問してきます。日本人のようにシャイではありません。私はある学生と仲良くなり、彼女が普段勉強に使っているノートを見せてもらう機会があったのですが、それを見てとても驚きました。そこには、日本の高校生が解くような数学や物理の問題がびっしり！もちろん、問題も解答も日本語です。彼女に限らず、AAJの学生は、1年後に控えた日本留学に行くための試験をパスするために、必死になって勉強していました。彼らの勉強に対する熱意には驚きました。これは私見なのですが、マレーシアという発展途上国、決して生まれた国自体にアドバンテージがあるわけではないと思います。でも、だからこそ、彼らにとって、「勉強することは生きること」なのかもしれません。少し穿った見方をしますが、彼らが私たちに優しくしたのは、私たちが、一時滞在者であって、様々な意味で「敵（ライバル）ではない」からかもしれません。一時滞在者としては歓迎してもらえても、そこで雇用を得て、生活するとしたら、限られたパイを食い合うライバルとしか見てくれないかもしれません。帰国後、私は、マレーシアでの彼らの姿を思い出し、こんなことを考えていました。そして、もう一度、自分の勉強に対する姿勢や、将来について考える姿勢を見直し、自分の中で意識を変えなければと思いました。自分はいったい何で勝負する？どう生きていく？自分に問い続け、残りの大学生活や、社会人生活を有意義なものにしたいと思います。

#### —最後に—

いろいろあった1か月間だけど、私はまたマレーシアに行きたい！焼けつくような暑さも、美味しい料理も、親切で温かい人たちも、みんな宝物です。最後になりましたが、このような機会を設けてくださった関係者の皆様や、一緒に研修に参加した首都大生の皆に感謝します。ぜひ、みなさんもマレーシア研修へ参加してください！